



# 東京多摩プロバスニュース

第 42 号

■事務局：〒206-0034 東京都多摩市鶴牧 5-29-10 平田方 ■編集・発行：広報委員会 2012. 5. 2

■電話・FAX (042) 338-7022 ■URL: <http://www.tokyo-tama-probusclub.com>

## 共に学び、活動し、自己実現と社会貢献を

### 第 93 回 定例会

日 時 : 平成 24 年 3 月 7 日(水)午後 1 時 30 分より

場 所 : 関戸公民館 第 1 学習室

出席者 : 30 名 (会員数 38 名)

### 第 94 回 定例会

日 時 : 平成 24 年 4 月 4 日(水)午後 1 時 30 分より

場 所 : 関戸公民館 第 2 学習室

出席者 : 26 名 (会員数 37 名)



ごあいさつ



### 理 念

1. 豊かな人生経験を生かし地域社会に奉仕する
2. 活力ある高齢社会を創造する
3. 会員同士の交流と意欲の向上をはかる
4. 非政治的、非宗教的、非営利的であることとする

### 私の大好きな隣国「韓国」

地域奉仕委員長 西村政晃

私は 41 年前の 1 月、2 人の山仲間と初めて韓国を訪ねました。その年の秋のヒマラヤ登山に備え三十八度線のすぐ南に位置する雪岳山(1708m)の氷瀑に登りに出掛けたのです。「死の谷」と名付けられた氷瀑のコースは時間がかかり、登頂の後下山途中から暗くなりヘッドランプを頼りに下降していました。

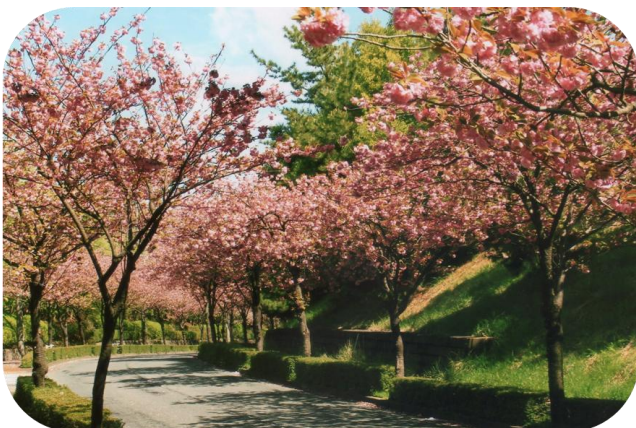
途中で“ジャパニーズ!”としきりに呼ぶ声の下から聞こえてきました。山小屋で同宿した韓国の青年 2 人が、私たちが遭難したのではないかと捜しに来てくれたのです。私たち 3 人は万全の装備と非常食を持ち途中でビバーク(不時露営)することになっても大丈夫の態勢でしたが、朝鮮戦争の痛手からまだ復興途中の韓国の青年 2 人の山靴には、氷雪登攀に必須のアイゼンすら付けられていませんでした。自らの危険を顧みず遠来の登山者の安否を気配りしてくれたのでした。そのエピソードが縁で数年後、韓国山岳会と日本山岳会とで交流登山を始め、10 数回の楽しい親善登山を実施しました。2 人づれの一人李光孝君とはすっかり意気投合しました。後に彼の姪御さんの日本の大学留学の際には、頼まれて 1 年近く拙宅でホームステイを引き受けました。その姪御さんが卒業



して帰国し結婚する時には夫婦で招待され、ソウルの明洞大聖堂でのカトリックの厳かな結婚式が印象的でした。

度重ねた交流登山で知り合った礼儀正しく、明るい韓国の岳友達や李ファミリーとの交遊を通じ、すっかり韓国ファンになってしまった私です。標高は低いながらも魅力的な山々、そして「薬食同源」の食事文化には、尽きることのない興味があります。

今月 12 日から山岳会の仲間 10 名で出かける 21 回目の訪韓は、釜山、慶州(新羅の都)、そしてやはり山登りです。皆様にもぜひ韓国旅行をお勧めいたします。



躍動の春到来で、爛満の八重桜並木<多摩市西落通り>

## 1. 幹事報告

稲田興幹事

### 1.1. 次年度の役員人事について

まず、4つの委員会から推薦委員を選出し、3月14日推薦者会議で「副会長以外の理事候補」を選出。一方、有識者会議で「副会長候補」を選出し、これらを基に折衝を重ね内定にいたり、3月理事会で承認を得ました。内容は4月定例会で報告しましたが、最終決定は総会でを行います。

### 1.2. 委員会メンバーの選出について

まず、選出方法を明確にして進めようと、クラブ運営細則の補足・改訂を行った。その上で次期委員長候補者を中心に、ドラフト会議を4月18日に開催。新年度夫々の会員が活動する委員会の割り振りを行った。その結果は5月定例会で発表する。

### 1.3. 地球温暖化防止活動の表彰

2年間にわたる活動を継続し、大きな改善成果を上げた15名を4月定例会で表彰した。以下表彰者氏名；古澤靖雄、永田宗義、鈴木達夫、大澤亘、上田清、稲田興、登坂征一郎、蓮池守一、増山敏夫、山田正司、西村政晃、村上伸茲、平田哲郎、楠慶二、三木宗治 各会員。

## 2. 委員会報告

### 2.1. 総務委員会

北村克彦委員長

1)3月度定例会(3月7日) 出席:30名 欠席:4名。

卓話、森川静子会員による「茶のこころ」。

関連記事P3参照。

2)4月度定例会(4月4日) 出席:26名 欠席:7名。

講話は、多摩市教育委員会教育部教育指導課 指導主事 中谷愛様による「多摩市小・中学校が進めるBSDについて」。

関連記事P3参照。

3)三木宗治会員が、健康上の理由により、この3月をもって退会されることになりました。この結果、当クラブの会員は37名(内4名が休会中)となりました。

### 2.2. 研修・親睦委員会

滝川益男委員長

1)4月12日、毎年恒例のお花見を市内桜ヶ丘公園にて行った。参加者は20名。前日雨のため一日延期しての開催となったが、好天に恵まれて温かい日差しを浴びながら、満開の桜が散るなかを野点と酒肴を楽しんだ。

関連記事P6参照。

2)5月に予定されていた研修旅行は、残念ながら参加者不足のため本年度は取りやめとなった。

### 2.3. 地域奉仕委員会

西村政晃委員長

この度、滝川道子会員の発案により地域密着の「日本の伝統文化サロン」がスタートしました。

地域のご婦人方に①和服の着付け、②暮らしの礼儀作法 江戸しぐさ、③茶道(薄茶・濃茶・煎茶の頂き方)、④貝合わせなど、わが国の伝統文化を学んでいただくという試みです。今回は連光寺、関戸にお住まいの御婦人を中心に、

連光寺の志学サロンで、一回1時間半、隔月で10回開催の予定です。

第1回2月28日(火)、第2回4月27日(金)に開催されており、このサロンは伝統文化に極めて造詣の深い女性会員が次々と講師を務められます。御期待下さい。



地域奉仕委員会の皆さん

### 2.4. 広報委員会

増山敏夫委員長

1)プロバスニュース第41号は3月7日に発行配布。5月2日に発行配布予定の第42号の原稿執筆のお願いをした。原稿入手後、編集、校正で編集会議開催3回。

2)当プロバスクラブのホームページは3月20日更新公開した。当ホームページへのアクセス数は、過去7カ月の平均で月100回でした。

## 3. プロジェクト報告

### 3.1. 環境問題プロジェクト

村上伸茲リーダー

4月度のプロジェクト会議において、以下のテーマを討議した。

1)1月度の二酸化炭素ガス排出量調査結果。

関連記事P5参照。

2)「多摩市環境基本計画について」定例会での講話を、多摩市都市環境部みどり環境課に打診する。

3)多摩市民企画講座について、継続してテーマを検討する。

### 3.2. 創立10周年記念事業プロジェクト

大澤亘リーダー

プロジェクトチームでは、4月4日の第92回定例会終了後に第6回の会議を開催した。この会議では、リーダーがこれまでの調査と検討の結果を整理して取りまとめた理事会宛報告書の素案を提出し、これについて意見の交換を行った。その結果、これをプロジェクトチームから理事会宛の報告書として提出することが了承された。

今後の段取りとしては、この報告書案の内容を定例会で会員の皆さんに説明してその意見も聞いたうえで、正式報告書として理事会に提出し、プロジェクトチームは解散する。次年度は、新理事会のもとに新たに「創立10周年記念事業準備委員会(仮称)」を設け、メンバーも新たにしたいうえで人数も絞り込み、記念事業の細目を詰めるとともに、会場の確保など具体的な準備作業に入っていきたい。

多摩市の小・中学校が進めるESDについて

多摩市教育委員会 指導主事 中谷愛氏

1) アメリカでの研修

ESD (Education for Sustainable Development) を担当するきっかけは、3週間にわたるアメリカでの教育研修。日本では教育行政や学校長による主導が特色だが、アメリカにおいては現場の先生がプロジェクトを提案し、それを行政側が判断する。アメリカ研修で学んだことは、地域と学校がコミュニケーションを密にパートナーシップを築き、地域と一体となって教育活動を行っていることであり、日本の教育にもこの方法を取り入れることの重要性を感じた。

2) ESDとは

世界が共通に抱える問題(水資源・人権・食糧問題・人口問題・地球温暖化・青少年の犯罪・高齢化社会等)をどう解決すべきか、日本によって2002年にヨハネスブルクで提案されたのが発端。現在ESDの推進母体は国連ユネスコであり、多摩市の全中学校もユネスコスクールに申請登録している。ユネスコのESD概念は、問題解決のための思考力、正しい知識と責任ある選択力、ネットワーク、パートナーシップ、イノベーションとグローバル化。

3) 多摩市が目指すこと

「2050年の大人づくり」のキャッチフレーズの下、さま



講演中の中谷愛氏

ざまな現実の課題に向けて解決を図ろうとする人材の育成。具体的な方策について教育現場で討議した結果、コミュニケーションの力が大切と認識。そのために、①正しい知識(人・社会・自然)を身につけ、②自分で考える力を養い、③自分の意見を持ち他者の意見を認め(意見交換)、④協働して実生活の中で実践し生かせる人材の育成を目指す。

4) 多摩市の学校における具体的な実践

これまでに下記のような実際の取り組みを行っている。

- ①「ゴーヤの栽培から生まれるストーリー的な学びを実践する」・東愛宕中学校、多摩第一小学校
- ②「多摩川を教材にして体験豊かな学びを通して多摩市への愛着を育む」・連光寺小学校
- ③「多摩の伝統文化を発見する、地域の方から学ぶ」・多摩中学校

多摩市教育委員会指導主事としてESDに関わって3年たつが、多摩市のESDをさらに推進するため、ESDセミナーを通じて市民に積極的に発信すると共に、地域の方々からの様々な提案を教育現場に反映させる学校と地域とのコーディネータ役を果たしていきたい。

(文責 関根正敏会員)

茶のこころ

森川静子会員

茶道は今から四百数十年前、利休(1522~1591)によって確立されました。その後、利休の教えは千家茶道として孫の宗旦の子が千家(表千家・裏千家・武者小路千家)を引き継ぎ現在に至っています。また、一方で利休の弟子たちも一派をなし、大名茶としては小堀遠州流・石州流・宗偏流など、ほかにも様々な流派があります。

茶のこころとは、一般的に千利休の唱えた「四規」の「和敬清寂」という四字の中に集約されると言っても過言ではありません。

<四規>

- 和→お互いが仲良く和し合うこと。
- 敬→お互いに同志が敬いあうこと。
- 清→清らかであること。
- 寂→どんな時にも動じない心。



また、利休は茶の湯の心得として「利休七則」を唱えています。この「利休七則」は利休に弟子が「いったい、茶の湯の上で心得おくべき最も大切なことは何でしょうか」と問い、利休が「茶は服の良きように点て、炭は湯の沸くように置き、花は野にあるように、夏は涼しく冬

は温かに、刻限は早めに、降らずとも雨の用意、相容に心せよ」と答えました。しかし、弟子はこれに対し、そんなことはよく存じていると答えました。すると利休は「私が言った通り実行できるのなら、私はあなたの弟子になります」と答えたという逸話が残っています。

しかしながら、茶の究極の目的は「わび」にあります。では、なぜ茶道に「わび」が重んじられるようになったのでしょうか。それは茶は禅と接し、室町時代の連歌と接するようになってからと言われていました。「侘びの本当の心は清浄で無垢な仏の世界を表したものだ」と言われています。また、利休の唱えた「わび」は紹鷗のようにただ秋の深まった夕暮れに「わび」を感じるのではなく、白一色の銀世界の下に着々と息づく生命力に「わび」を感じているのです。

最後に私達はどこに「茶のこころ」を感じるのでしょうか。それは「一期一会」の茶事の中に息づく「もてなしの心」こそ「茶のこころ」だと言われていました。

私も「もてなしの心」で茶事ができるよう精進していきたいと思えます。

◇◇◇ 私の多摩ニュータウン（４） ◇◇◇

私の「家の履歴書」

平田哲郎会員

私の人生の遍歴を顧みると、出生は北米カリフォルニア、幼時帰日し母の実家に近い三原で少年期を過ごし、高松で学生時代を、陸軍に徴兵され中支を転戦、復員後紡績会社に職を得て三原、東京、名古屋、彦根を転々とした後定年を迎え、「終の棲家」として多摩ニュータウンに居を構え第二の人生を送ることとなった。

○多摩ニュータウン公団住宅積立開始

昭和40年代の後半、老後の設計をたてるべく東京で土地探しを始めたが時すでに遅く折からの地価急騰で手が出せず、やむなく、老後生活の最低線をヘッジ保険すべく、当時募集中の住宅公団の「南多摩積立分譲」に応募し積み立てを開始した。

ところが、積立満期に近い頃、住宅公団から「石油ショック」による諸資材の高騰を理由に大幅値上げを提示してきたため、憤激した積立者有志を糾合し、「南多摩団地積立者の会」を発足、住宅公団と条件闘争を重ね当時の公団では最大面積といわれた4DKの住宅提供を引き出し、妥協した一幕があった。

○公団住宅（豊ヶ丘）に入居



ありし日の落合白山神社

昭和51年3月上記4DKに入居した。南面の広い部屋どりは素晴らしく大満足であったが、いったん外に出ると、開発途上とあって、

ブルドーザーで削り取ったままの剥き出しの赤土の「陸の孤島」そのもの、風吹けば砂塵、雨降れば泥道の難行苦行であった。そんな中、通勤の途次多摩センターの駅までの一面の荒野？のなかにポツンと取り残された「落合白山神社」の二本の大木と祠の孤高な姿はよそ者である我々の胸をもキューンとさせる何かがあった。聞けばその祠は元和4年（1618年）に勧請されたものとか・・・その孤影は追われゆくものの哀愁をたたえていた。現在は、駅近くに立派な「白山神社」として再建されているが、私はこの古い一葉

の写真を見るたびに、入居当時の多摩の原風景が脳裏にジーンとオーバーラップする。

○自宅の建設（鶴牧）

その後、昭和57年4月実施された住宅公団の土地分譲に応募、60数倍と言われた高倍率の抽選を幸運にも突破して念願の地主になった。この鶴牧の家は我が家を持たせた喜びとともに大きな付録ももたらした。それは、我が家の二階から見下ろすとすぐ前の幹線道路を越えた150ヤード向こうに東京国際



雪のゴルフ場を望んで（自宅2階より撮影）

カントリー（当時、メンバーであった）のアウト9番のティーグラウンドが見え、その300ヤード向こうには9番ホール

の小高いグリーンとピンが見える。さらに好天の日はその向こうに富士山をクッキリと望めるという、ゴルフ好きには全くこたえられない別荘感覚の立地であった。上の写真は雪の日に撮ったものでフェアウェイは雪で白く覆われ、9番ホールのピンがかすかに見える。

この好環境もあって、毎週土曜日には、会社の仲間・取引先・知人からのゴルフの予約が絶えず、さらに、プレイ終了近くなると9番ティーグラウンドから家内に夕食の準備のサインを送り、我が家で小宴を張るといふ、会社の業績向上に大いに貢献？した時代が定年まで10年近く続いた。思えば、楽しい人生の一齣であった。

○第二の人生と多摩ニュータウン

顧みると、私にとって、多摩ニュータウンは誠に「ゲン」の良い「棲家」であったようだ。昭和51年多摩に居を移してからはトントン拍子で運に恵まれ、会社では至難と言われた子会社の立て直しに成功、役員から常務、常勤監査と順調に昇進し、更に定年後は、繊維関係の協会に12年間職を得、存分に時間と趣味を楽しみ、80歳では幸運にも多摩プロバスクラブの一員に加えられ、順風満帆といえるほどに恵まれた後半生を送れたのも多摩との相性が良かったからかなと思っている。

◇◇◇ ハッピーバースディ ◇◇◇

誕生日祝い

3月および4月に6名の方が誕生日を迎えられました。

写真左；3月誕生の

写真右；4月誕生の

岡野一馬会員

神谷真一会員

平田哲郎会員

大澤亘会員

小西加葉子会員

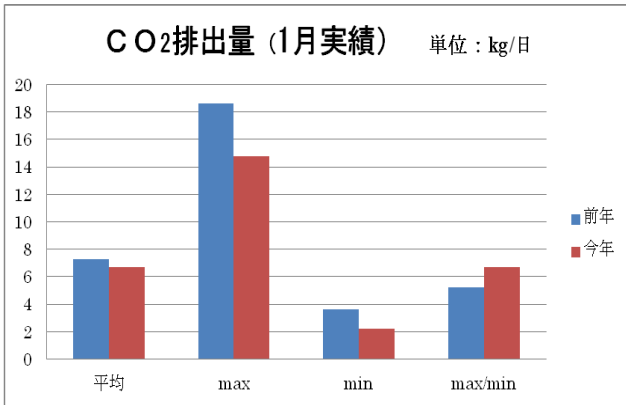
永島仁会員



◇◇◇ プロジェクト報告 ◇◇◇

「環境問題プロジェクト」  
＜地球温暖化防止活動＞

稲田興会員



第8回目の炭酸ガス排出量調査を1月度実績で行った結果は、上図のごとく、最多・最少共に大きく削減できている。しかし20名の平均で見ると一人一日当たり6.9kgの排出量は、前年同月比6%減に止まった(右上表参照)。

これは昨年比去年1月の平均気温(3℃)が0.3℃も低かったことがその原因と考えられるが、それにもかかわらず、これだけの数値を達成できたことは立派である。

要因別にみると、寒さ対策として暖房用の電気・ガス・灯油が多く使われ、平均で電気は6%減、ガスは12%増、灯油は10%増という結果でした。

個人別にみると、炭酸ガス排出量を前年同月比で増加させてしまった方が半数に上る反面、削減できた10名の中には、排出量をほぼ半減された方もおられます。半減された方は、エアコン暖房中心からコタツ暖房中心に切り替えた結果とのこと。このように部屋を暖めるのではなく、個体

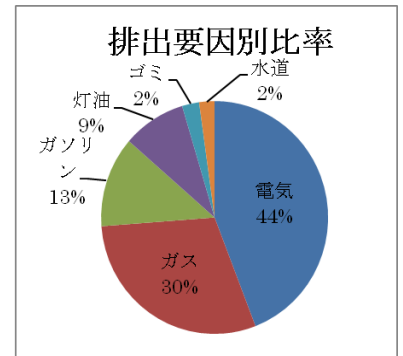
1月度実績データ (単位: kg/人・日)

	前年	今年
平均	7.3	6.9
最多	18.6	14.8
最少	3.6	2.2
最多/最少	5.2倍	6.7倍
対象人員	23名	20名

をウォームビズの考え方で温める方法等を取り、無駄なエネルギーの利用を大幅に減らすことができたのである。

1月実績では、最もエコな生活を営んだ方は神谷会員で、二位は古澤会員、三位が永田会員でした。

排出要因別にみると、右の円グラフに示すように、電気・ガス・ガソリンが三大要因で、全体の9割近くを占め、今後もこれらを中心に効率的利用が望まれる。



今回の調査を含め、二年間のデータが出揃い、前年度比較ができるようになった。年間比較では前年度に比べ炭酸ガス排出量を14%削減することができ、当初想定した以上の成果が納められ、大きな費用をかけずに意識改革するだけで、15%程度の改善ができるという実証が得られた。

現在これらのデータ分析に取り組み中で、次号にその結果を報告する予定である。

◇◇◇ サークル活動 ◇◇◇

俳句サークル「山梨桃の花吟行」 増山敏夫会員

「ある場所で、時間と空間を共有し、情感と季節感を動機として作句を競う一種の俳句ゲーム」・・・私の吟行初体験の予備知識だった。4月13日、訪れたのは、俳人・飯田蛇笏と龍太親子の旧居「山廬」(非公開)。夫々大正・昭和、昭和・平成の俳壇の巨星。甲府盆地の南側に広がる丘陵の東端にあり、辺りは一面のピンクで桃が満開。彼方には雪峰が連なっていた。吟行は雪二先生の補佐役・春兎さんのお世話で一行は27名、我が句会から7名(稲田、神谷、登坂、北村、増山とPC会員以外から2名)が参加した。



飯田家は代々庄屋で母屋は優に60坪を超える大屋敷であり、圧倒的な量感をもつ急勾配の大屋根(元は茅葺)。手入れの行き届いた前庭。広大な敷地には、竹林、溪流、蛇笏が後山と名づけ句想を練った丘陵がある。書斎、書院座敷は蛇笏・龍太生前のままに保存され、句会や作句活動に励んだ当時から偲ばれる。約1時間半、邸内を眺め散策し、一人二句ずつ作句の後、当主(龍太のご子息)ご夫婦のご好意で、三間ぶち抜きタタミの間で句会が行われた。27名×2句、計54句の中から各自5句を選句、披講・点盛が行われ、予想通り雪二先生がダントツの一位を獲得された。先生の句は、いずれも場の情感と季節感を切り取った見事なものでした。われわれ会員の吟行句も、はじめてにしてはまづまづの出来です。

土句う筆立て重き山廬かな	稲田畦道
桃の花山廬で友と句を詠みて	神谷猛虎
弁当を開き百戸の桃の里	北村岳人
白遠嶺甲斐埋め尽す桃の里	登坂爽風
春の鳥蛇笏龍太の張り回し	増山胡桃子

写真左: 参加した山つつじ・山鳩他各句会の皆さんと(山廬の前庭)

お花見

神谷真一会員

昨年は東日本大震災で中止となったお花見が、4月12日(木)に多摩市の花であるヤマザクラが満開の下で開くことができました。会場の都立桜ヶ丘公園は、昔の多摩丘陵の姿を残す美しい公園です。その中に建つ市の有形文化財の旧多摩聖蹟記念館は昭和初期の近代建築で、その近くのあずまやに席を設けて会が始まりました。

初めての試みとして、酒宴の前に桜の宴にふさわしい艶やかな着物姿の三名のお茶の先生方(いずれも当会員)の御点前を楽しみました。なれない仕草でかしこまって、茶菓子と抹茶をいただく男性会員の神妙な様子がこっけいな情景を醸し出していました。この茶席での茶釜には本物の炭にみたてた工夫がなされたり、保温のためにホカロンを隠し入れたりと、よくも考えついたと感心しました。茶会が終わり、宴会に移り、おいしい弁当・菓子や飲み物類が並べられ、時折の春風に乗って花びらが盃に浮かんだり和気あいあいのうちに無事お花見は終了しました。

陽春の桜の下でのお花見会は念入りに練られた準備と御骨折りにより生まれました。滝川益男研修・親睦委員長は



桜を愛で、野点を楽しむ会員

じめ研修・親睦委員会の3名の茶道の先生方や皆さんの努力に感謝をし、絆を深めた一日になりました。

東京多摩プロバスソング

作詞 池田 寛  
作曲 中村 昭夫

聖の桜仰ぎつつ 多摩の流れに身を清めて  
緑の杜に囲まれた 我が故郷の行く末と  
社会奉仕に力をそそぐ  
集う我等プロバスクラブ  
プロバス プロバス 多摩プロバスクラブ

霊峰富士を仰ぎつつ 心の業を磨き合い  
豊かな知識身につけて 次の世代の若人の  
教え導く糧となる  
集う我等プロバスクラブ  
プロバス プロバス 多摩プロバスクラブ

貝合わせ

吉岡喜久恵会員

私たち「東京貝合わせ研究会」は、東愛宕中学校の依頼により、去る3月6日(火)に貝合わせ体験学習を実施致しました。これは、同校の総合学習授業の一環として行われたもので、過去にも18年度からこれまで4回行いました。

まず最初に、体育館で「貝合わせ」の歴史について説明を行いました。貝合わせは、平安時代の貴族たちが和歌を添えた文学的な遊びから始まり、江戸時代には庶民のゲーム的な遊びへと変化していくとともに、武家社会では、花嫁道具のシンボルとして重用されました。この話に、生徒達も熱心に耳を傾けてくれました。



貝合わせの説明をする吉岡会員

その後で、実際に貝合せゲームを行いました。6畳のゲーム場2箇所には緋毛氈を敷き、蛤貝を90個ずつ並べ、男女混合で二組に分かれてゲームを行いました。最初は照れていた男子生徒も、ゲームが進行するうちに真剣な面持ちで競い合っていました。

校長先生や美術の先生も来場され、校長先生から「これは、来年もお願いしたいな」、美術の先生からも「生徒が貝に絵を描くのもいいね」など、お言葉をいただきました。

このような伝統あるものが、若い世代に継承されることを願い、更に努力したいと思えます。

◇◇◇ 編集後記 ◇◇◇

危ないところでした！4月12日快晴、微風、多摩プロバスクラブのお花見。野点があり、有名銘柄の日本酒・焼酎・ワイン・ビール、幕の内弁当・おつまみと満開の桜の花びらがひらひらと舞い落ちるなか、大いにエンジョイしました。

暑くなったので、日陰に移動して飲みなおそうとしたとき、滝川さんから大声で注意あり「みなさん！脱水症状に注意してほしい、水をたくさん飲んでください！」。

あわや熱中症になるころでした。ご存知と思うが、アルコール飲料には利尿作用があり、水分が体の外にたくさん出る、また体内のアルコールを分解するとき、大量の水を必要とするから脱水状態になりやすい。

滝川さん、アドバイスありがとう。

(村上伸茲広報委員記)